

本学会名誉会員 城 憲三先生を偲ぶ

牧之内 三郎†

城憲三先生は、数学を尊び計算機を愛して、数学と計算機に関する研究と教育に40有余年の間情熱を傾けられ、ここ7年余りは、広いお屋敷での晴耕雨読を元気に楽しんでおられました。昭和57年2月9日逝去されました。享年78歳。ここに謹んで哀悼の意を捧げます。

先生は大阪府立八尾中学校から第三高等学校を経て、昭和3年京都帝国大学理学部数学科をご卒業の後、直ちに浜松高等工業学校講師に任ぜられ、翌4年大阪工業大学に講師として赴任されました。同大学は、昭和8年、名称変更によって大阪帝国大学工学部となりましたが、先生は引継ぎ大阪帝国大学工学部講師、助教授を経て、昭和16年教授に就任され、同学部精密工学科第1講座(応用数学・計算機械)を担当されました。

先生は、明晰でかつ魅力のある講義を通じて工学部学生に対する数学教育に並々ならぬ努力を払われるとともに、先生ご自身は純粹数学の分野において単葉関数に関する研究に輝かしい業績を挙げられ、理学博士の学位を授与されたのであります。

一方、先生は昭和14年から計算機械の研究にも着手せられ、阪大・精密工学科において「数学機器」の講義を戦前から行って来られました。講義の原稿のあらましは、養賢堂が当時発行していた雑誌「機械及び電気」の第6巻第5号(昭和16年5月)から第8巻第3号(昭和18年3月)に連載されましたが、この内容を整理して一冊の本にまとめられ、「数学機器総説」を昭和22年増進堂から刊行されました。同書では、

面積計、調和解析機、微分解析機などのアナログ計算機

および

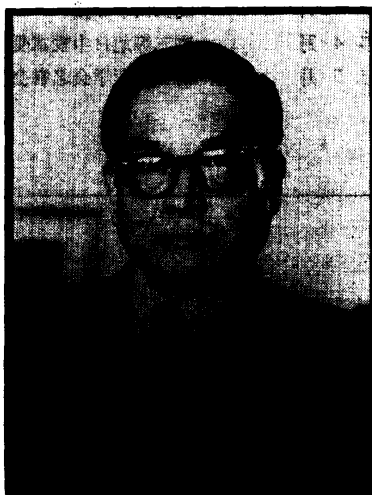
機械式・電動式卓上型計算機、統計機械(PCS)などのデジタル計算機

について述べておられますが、1946年2月18日のNews Week誌で報道されたENIACについても説明を加えておられます。

このように、先生は戦後直ちに電子計算機の研究と教育に手を染められ、真空管式電子計算機を試作されて、わが国における電子計算機に関する研究の先駆者として活躍されました。昭和28年共立出版から刊行された先生の著書「計算機械」はわが国最初の電子計算機の専門書として高名であります。また、大学における研究用電子計算機の導入についても尽力せられ、全国共同利用大型計算機センター設置の立案に参画して、大阪大学大型計算機センター創設の基礎を築かれました。

なお、先生は本学会として最初の支部を関西に設立することにも鋭意努力され、昭和38年9月本学会関西支部が設置されたのであります。その後約3年半の間、初代支部長として関西支部発展の基礎固めに尽力されるとともに、当学会本部の理事および副会長をも歴任され、本学会のために多大の貢献をされました。

先生は「数学機器総説」の第27節で「文字や数学の取扱いは、何といたっても学問、文化の根本の問題である。これを取扱う計算機は、かりそめに有った方がよいというようなものではない。無ければ、学問も文化も経済もその健全性を失調するのである。」と述べておられます。先生のこの思想は本学会会員に今後も受け継がれることと存じます。先生の御霊のやすらかならんことをお祈り申し上げる次第であります。



† 大阪大学工学部

御 略 歴

明 治	37 年 1 月 29 日	大阪市に生れる
昭 和	3 年 3 月	京都帝国大学理学部数学科卒業
	3 年 4 月	浜松高等工業学校講師
	4 年 4 月	大阪工業大学講師
	8 年 4 月	大阪帝国大学講師
	13 年 12 月	大阪帝国大学助教授
	16 年 4 月	理学博士 (大阪帝国大学)
	16 年 5 月	大阪帝国大学教授
	38 年 度	情報処理学会理事
	38 年度~41 年度	情報処理学会関西支部長
	39 年度	情報処理学会副会長
	41 年度~42 年度	情報処理学会理事
	42 年 4 月	大阪大学名誉教授
	42 年 4 月	関西大学教授
	49 年 4 月	勲三等旭日中綬章受章
	55 年 5 月	情報処理学会名誉会員
